



【コネクター接続設定ガイド】 HULFT Square コネクター for Amazon Web Services(Amazon Aurora)

株式会社セゾンテクノロジー
カスタマーサクセス本部
カスタマーサクセス部

版数	発行日	改版内容
第1版	2024.1.31	初版リリース
第2版	2024.3.01	Amazon Redshiftコネクターを追記
第3版	2024.3.29	コネクター名を「HULFT Squareコネクター for Amazon Aurora」に変更 資料を接続先サービス単位に分割
第4版	2026.3.18	フォーマット差し替え

HULFT Square コネクター for Amazon Web Services

- Amazon Aurora
 - Amazon Aurora for MySQL

Amazon Auroraとの接続

接続先サービス	コンポーネントアイコン名	機能概要
Amazon Aurora for MySQL	テーブル読み取り	テーブルに格納されているデータを読み取る
	検索系SQL実行	SQL文を用いてデータを読み取る
	テーブル書き込み	入力データをテーブルに書き込む
	更新系SQL実行	SQL文を用いてデータを書き込む
	ストアドプロシージャ実行	ストアドプロシージャを実行する

HULFT Square コネクター for Amazon Web Services(Amazon Aurora)

Amazon Web Services（AWS）から接続情報を取得し、HULFT Squareに接続設定を作成します。

1. Amazon Aurora側

Amazon Auroraの接続情報取得

- 1.1. 環境準備
- 1.2. 接続情報取得
- 1.3. VPCエンドポイントサービス名の取得

2. HULFT Square側

コネクションの作成

- 2.1. VPCエンドポイントの作成
- 2.2. DNS名の取得
- 2.3. コネクションの作成
- 2.4. スクリプトの作成

本資料では、PrivateLinkで接続するAmazon Aurora for MySQL 5.7を例に設定しています。

設定は2023年10月1日時点の手順です。
クラウドサービスのため、変更されている場合があります。
変更されている場合、カスタマーサポートまでご連絡ください。

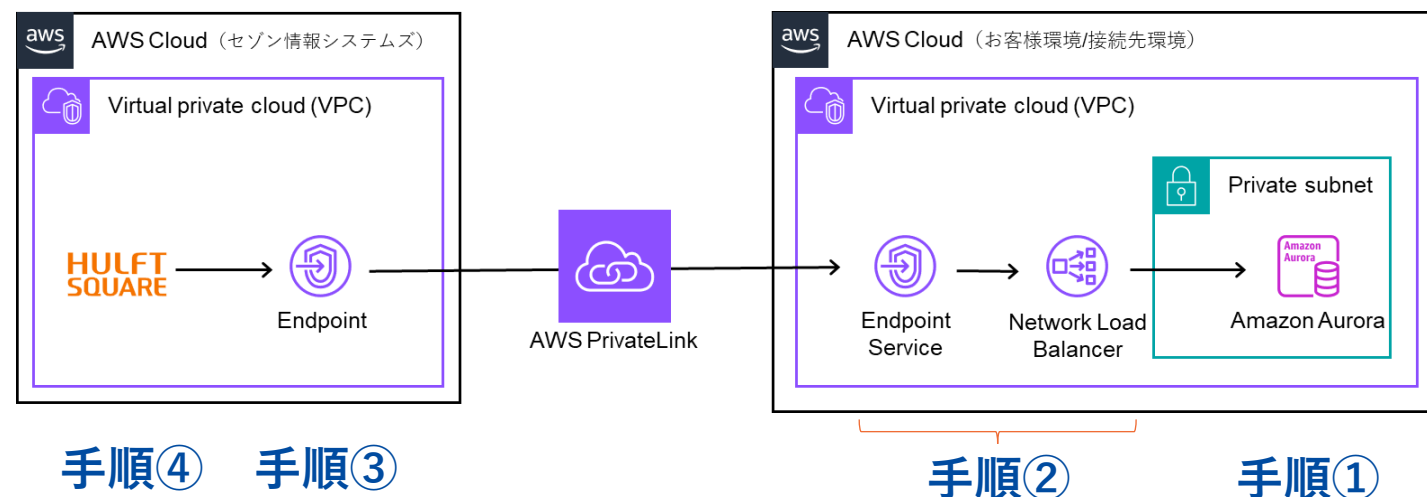
Amazon Auroraの接続情報取得

1. Amazon Auroraの接続情報取得

1.1. 環境準備

HULFT SquareからAmazon Auroraに接続するため以下の情報を取得します。

- VPCエンドポイントサービス名
- HULFT Squareから接続するポート番号（リスナーポート番号）
- データベース名
- 接続するユーザ名
- パスワード

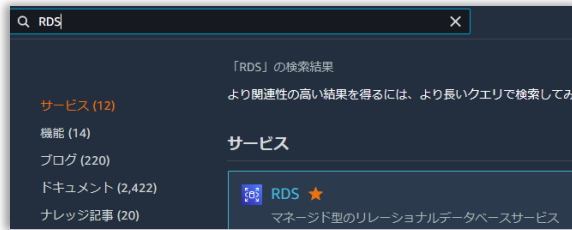


手順①～手順④の順番で設定をおこないます。
本資料は、手順①、手順②をAWSで確認し、
HULFT Squareで手順③、手順④を設定する手順を記載しています

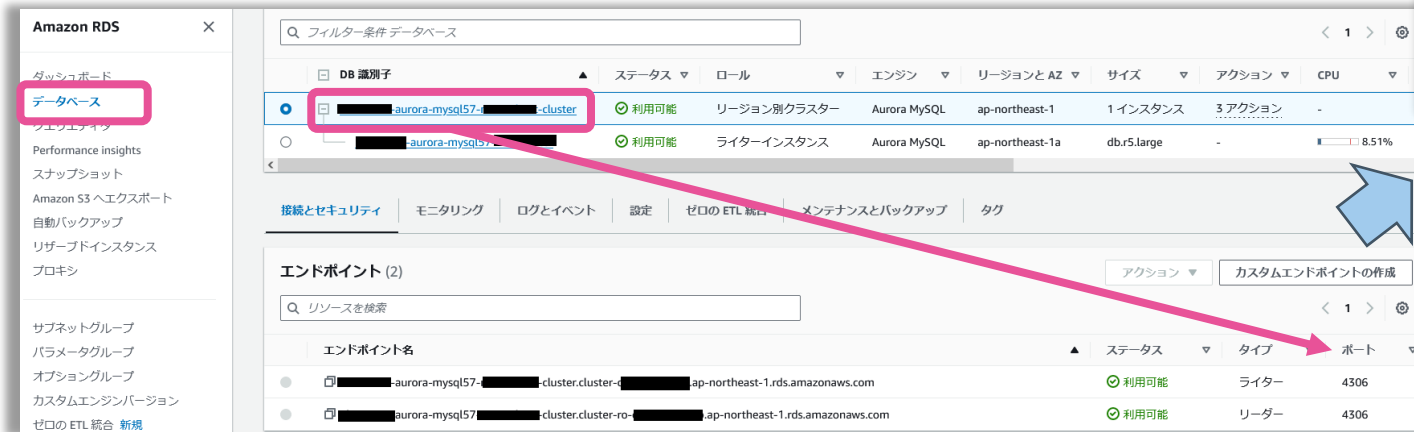
1. Amazon Auroraの接続情報取得

1.2. 接続情報取得 (1/3) – 手順①

AWSマネジメントコンソールにログインしAuroraの接続情報とVPCエンドポイントサービス名を取得します。



AWSマネジメントコンソールから「RDS」を選択しデータベースの一覧より接続先DB（Aurora）を指定します。



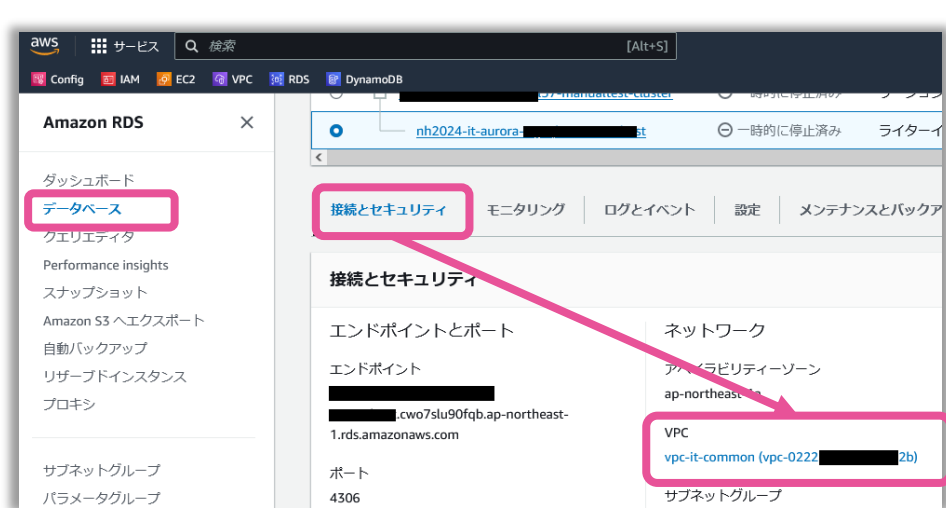
「設定」を選択し、マスターユーザー名を取得します。AWSマネジメントコンソール上パスワードはマスキングされています。Auroraクラスター作成時に指定したパスワードをご用意ください。

「接続とセキュリティ」を選択しAuroraのポート番号を取得します。

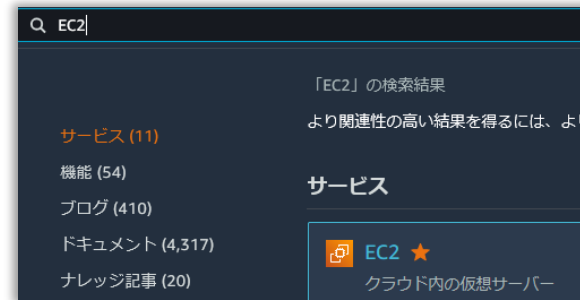
1. Amazon Auroraの接続情報取得

1.2. 接続情報取得 (2/3) – 手順②

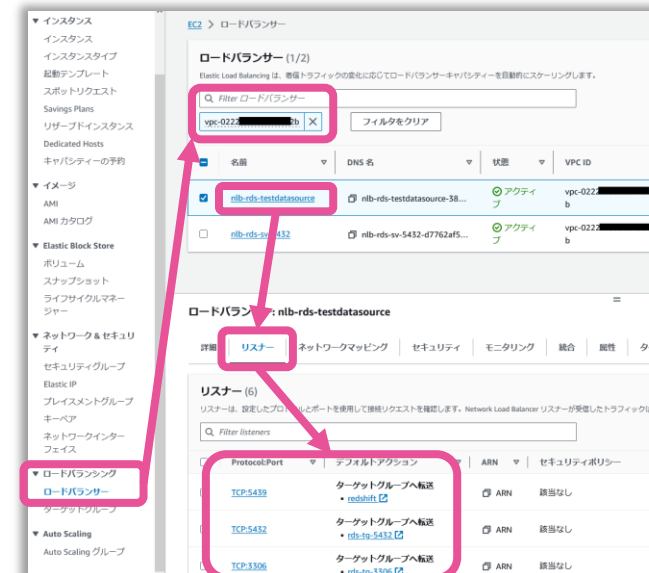
Auroraのポート番号をもとにHULFT Squareから接続するポート番号（リスナー）を確認します。



「接続とセキュリティ」を選択しVPC IDを取得します。



AWSマネジメントコンソールから「EC2」を選択しロードバランサーの一覧で、VPC IDを指定し検索します。



1つずつロードバランサー、「リスナー」を開きターゲットグループを順に確認します。

1. Amazon Auroraの接続情報取得

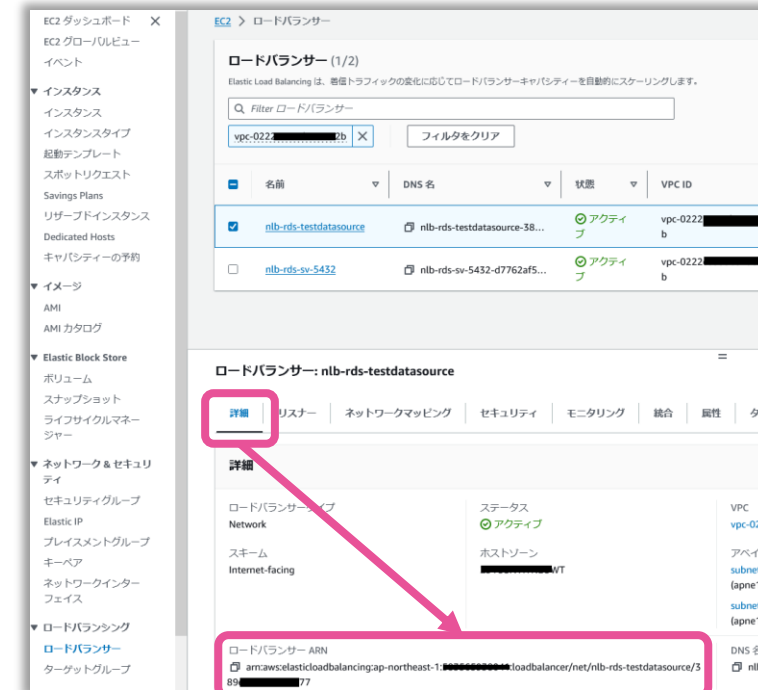
1.2. 接続情報取得 (3/3) - 手順②

リスナーのポート番号とロードバランサーARNを取得します。



Auroraのポート番号に中継するターゲットグループを探し
リスナーのポート番号を特定します。

※HULFT Squareから接続するポート番号



VPCエンドポイントサービス名の確認のため、
対象のリスナーを含むロードバランサーを開きなおい、
「詳細」を開き、ロードバランサーARNを取得します。

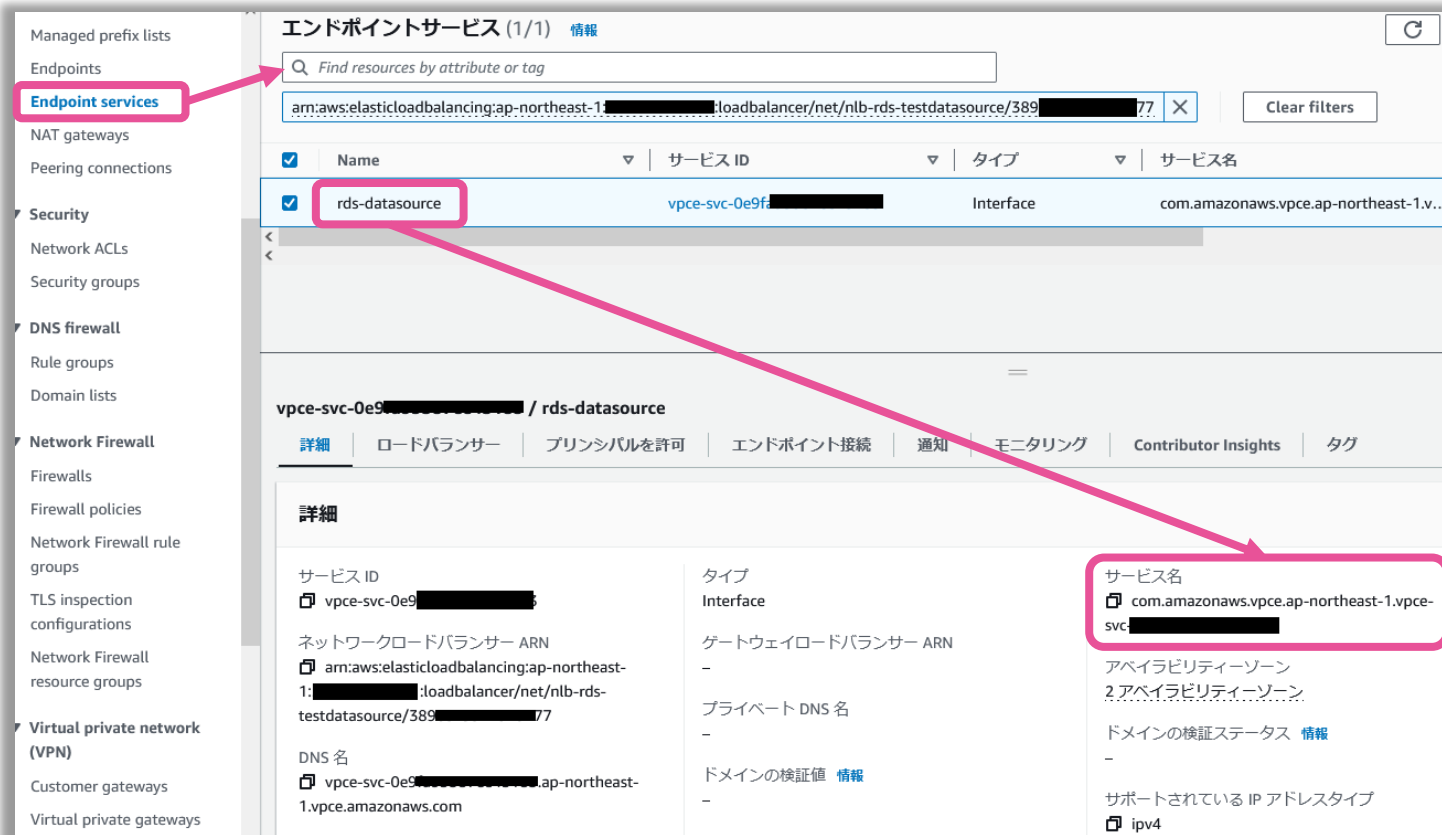
1. Amazon Auroraの接続情報取得

1.3. VPCエンドポイントサービス名の取得 - 手順②

VPCエンドポイントサービス名の取得を行います。



AWSマネジメントコンソールから「VPC」を選択しエンドポイントサービスを指定します。



ロードバランサーARNを指定し検索します。
「詳細」よりサービス名を取得します。

HULFT Square側の設定

2. HULFT Square側の設定

2.1. VPCエンドポイントの作成 - 手順③

HULFT SquareからAmazon AuroraのVPCにPrivateLinkで接続します。



HULFT Squareで「VPCエンドポイント」を指定し、追加アイコンを選択します。

The screenshot shows the VPC endpoint creation form. The '名前' (Name) field is filled with '新しいエンドポイント' (New Endpoint). The '説明' (Description) field is empty. The 'VPCエンドポイント サービス名' (VPC Endpoint Service Name) field is empty. The 'キャンセル' (Cancel) and '次へ' (Next) buttons are at the bottom.

任意の名前を入力し、「VPCエンドポイントサービス名」に、AWSマネジメントコンソールで取得したVPCエンドポイントサービス名を入力します。
「次へ」を選択します。

2. HULFT Square側の設定

2.2.DNS名の取得 – 手順③

作成したVPCエンドポイントから、DNS名を取得します。

HULFT Squareは、このDNS名を指定することでPrivateLinkを介し、Amazon Aurora for MySQLに接続します。

VPCエンドポイント > [redacted] rds-datasource

ステータス ▶ 起動

名前 *

説明

DNS名  vpce-02[redacted].vpce-svc-0e9[redacted].ap-northeast-1.vpce.amazonaws.com

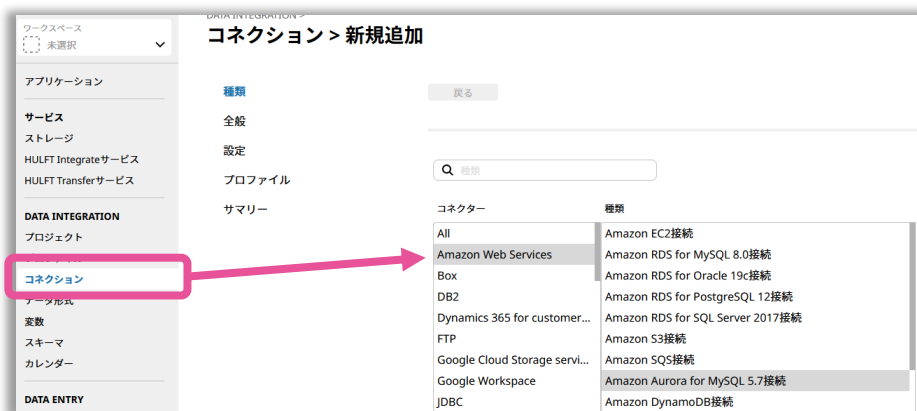
リージョン アジアパシフィック (東京)

VPCエンドポイント サービス名  com.amazonaws.vpce.ap-northeast-1.vpce-svc-0e9[redacted]

2. HULFT Square側の設定

2.3. コネクションの作成 (1/2) – 手順④

HULFT SquareからAmazon Aurora for MySQLに接続するコネクションを作成します。
作成したVPCエンドポイントのDNS名、AWSマネジメントコンソールで取得したポート番号等を利用します。



クラスターエンドポイント *

ポート番号

データベース名 *

ユーザ名 *

パスワード

SSL接続 ☐

接続テスト

名前 * azon Aurora for MySQL 5.7接続

ワークスペース Personal

説明

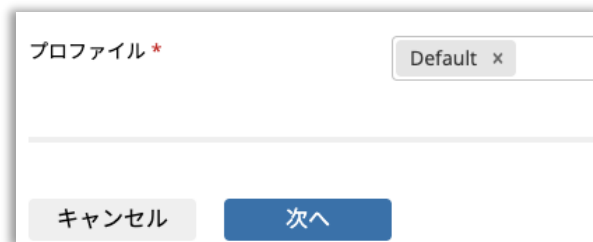
設定後「接続テスト」を選択します。

コネクション名を指定し「次へ」を選択します。

2. HULFT Square側の設定

2.3. コネクションの作成 (2/2) - 手順④

接続確認を行い、プロファイル選択後にコネクション作成の完了となります。



コネクションに紐付けるプロファイルを指定します。

「次へ」を選択します。



コネクションのサマリが表示されます。
内容を確認後、「完了」を選択します。

お疲れさまでした。Amazon Aurora for MySQLの接続設定が作成できました！

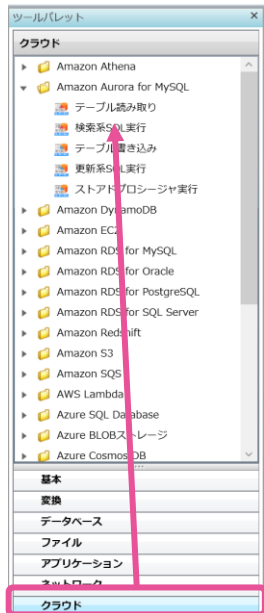
2. HULFT Square側の設定

2.4. スクリプトの作成

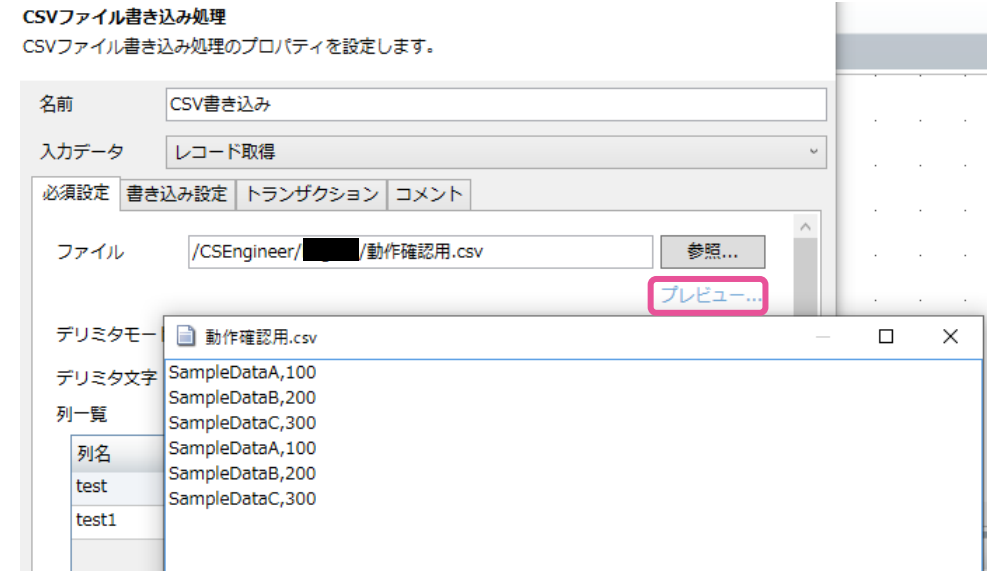
Amazon Aurora for MySQL 5.7のテーブルに登録されている、すべてのレコードを取得するスクリプト作成例です。

HULFT SquareでAmazon Aurora for MySQLからデータを読み取れることを確認します。

作成するスクリプト（完成図）



[接続先]でコネクションを指定し、
[テーブル名]に読み取るテーブルを指定します。



CSVファイル書き込みを配置し、プロセスフローとデータフローを引きます。スクリプトを実行しデータが書き込まれたことを確認します。



< 免責条項 >

本資料の内容は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されているものであり、今後予告なしに変更されることがあります。よって本資料使用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。